

信州大学教育学部附属松本中学校 3年A組

「Aえ！子ども食堂」



信州大学教育学部附属松本中学校 3年A組担任 宮坂浩司

(1) 今回の取り組みに至った背景

- 「笑顔でつなげる幸せ」の実現を目的とした学級総合の開始にあたり、情報収集をする (R5.4)

1A総合の目標「笑顔でつなげる幸せ」に近づくためのテーマのヒント



- ・休校や、病気に苦しむ子供や働いて疲れた大人のために子ども食堂で働けないだろうか。
- ・みんなでやればコミュニケーションの幅が広がる。
- ・

1A総合の目標「笑顔でつなげる幸せ」に近づくためのテーマのヒント



- ・子ども食堂や児童養護施設は何歳からでも利用できて、大人も子供と一緒に気軽に利用できる。
 - ・大人と一緒にいていなくても子供一人で利用できる。
 - ・経済的に恵まれているか、恵まれていないかなんて関係なく利用することができる。
 - ・子ども食堂では、ご飯を食べるだけでなく、工作や農業体験もでき、誰が行っても楽しく過ごせる場所になっている。
- こういう場所のお手伝いに行く（お菓子などを作ってあげる）＝ {笑顔でつなげる幸せ} になる！！

→生徒がやってみたいと思う7つのテーマに絞る

「子ども食堂グループ」がスタート

(1) 今回の取り組みに至った背景

信州子ども食堂ネットワーク



TEL



青木正照さん
専務理事

紹介



田口恵子さん
寄り添い子ども食堂

(1) 今回の取り組みに至った背景



子ども食堂グループ

- ・新聞記事で「高校生が子ども食堂を開いた」ことを知り、ヒントを得る
- ・自分たちで子ども食堂を開き、来た人を幸せにしたい
子ども食堂のイメージを、より身近なものにしたい

👤 寄り添い子ども食堂（里山辺） 田口さん

【成果・前進】6/24・7/29に、訪問し手伝う

【課題・壁】実施時期・場所の選定 どれだけ周知できるか

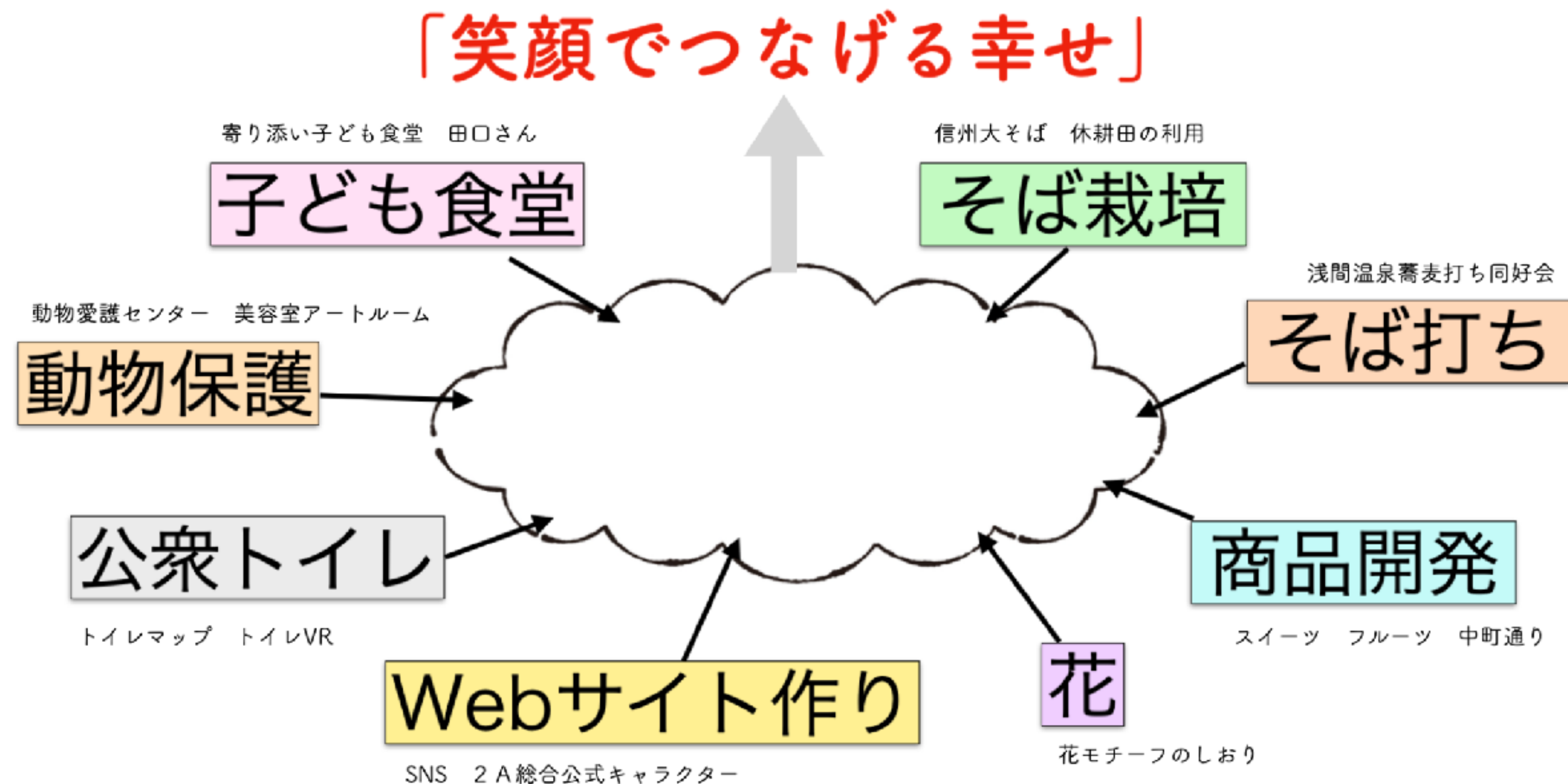
【可能性】「学校＋子ども食堂」で補助金の申請可



今日「寄り添い子ども食堂」に実際に行ってきました。とてつもないスピードでお弁当が作られる様子を見たり、物資提供のお手伝いをさせてもらったりしました。その場にいるボランティアの人たちが、とても優しかったです。子ども食堂に来た人たちとも関わることでできて楽しかったです。子ども食堂の工夫や、大事なことなど、いろいろなことを学べたので、これからの総合に活かしていきたいと思いました。また行きたいなあ。（MS生）

(1) 今回の取り組みに至った背景

- 「笑顔でつなげる幸せ」の実現のため、自分たちもつながりたい 何かひとつのことをしたい



(1) 今回の取り組みに至った背景

- 「子ども食堂グループ」からコラボレーションの呼びかけ

子ども食堂グループ

どのように、
コラボしていきたいか。

他のグループとのコラボについて

コラボというのは？

「1A全体を子ども食堂グループにまとめたい」
という事ではなく、

それぞれの**グループの活動**を続けつつ、
みんなで**協力して**活動を発表する場を作り、
総合最終目標の

「**笑顔でつながる幸せ**」に**近づきたい！**

②動物保護グループとコラボ

元々
「A! こどもあつまれ」の利益を動物保護団体に送って欲しい。
動物に関するクイズを行ってほしい。

●お願いしたいこと

- ・動物に関するクイズの作成
- ・利益の管理



①そばグループとコラボ

元々
「A! こどもあつまれ」に来たお客さんにそばグループの開発した商品を、
ぜひ、その場で食べてもらったり、持ち帰ってもらったりしたい。
そばに関するクイズを行ってほしい。

●お願いしたいこと

- ・子ども食堂で提供する商品の開発
- ・メニュー作りの協力
- ・提供する商品をつくる
- ・そばに関するクイズを考える。



(2) 実施内容の概要

当日の来校を呼び掛ける「こども食堂」グループの生徒たち



信大付属中2年A組

中学生が開催

こども食堂

松本市の信州大学付属松本中学校・2年A組は、3月8日午前11時半～午後2時半、同校体育館で「Aえ！こども食堂」を開く。総合的な学習の時間で同食堂について学ぶ中で自分たちも開催してみようと思いついた。先着約300人に手作りの豚汁などを提供する。食事提供だけでなく「防災」をサブテーマにするのも特徴だ。

(伊沢 陽)

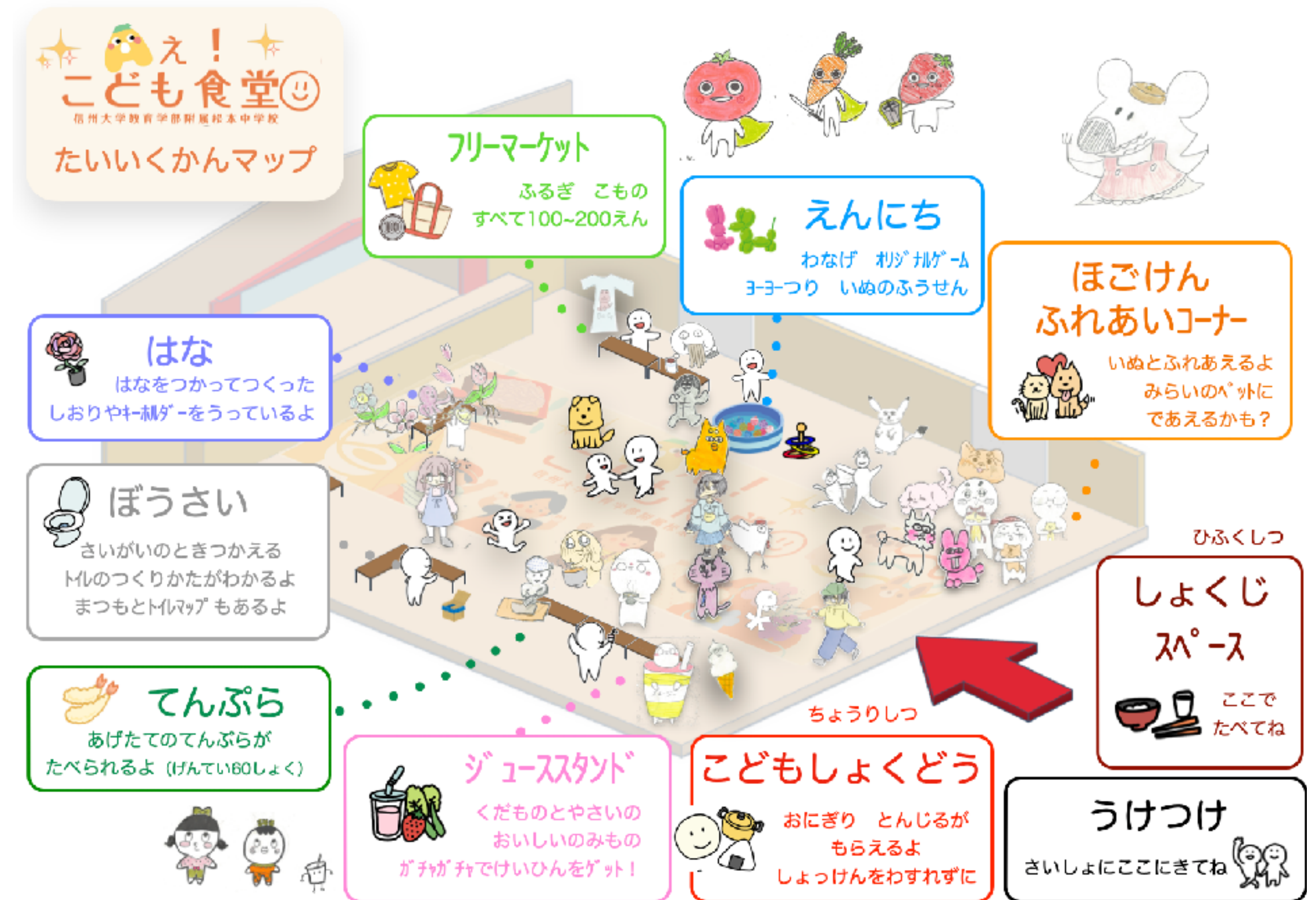
3月8日 防災も考える

1年生の時から「こども食堂」を題材に学ぶ生徒が中心となって企画する。本年度は同市里山辺の「寄り添いこども食堂」の関係者に協力してもらい、3回ほど活動に参加し、食堂について理解を深めた。生徒らは事前に豚汁作りも経験した。

3月8日は豚汁、防災食のアルファ米を約300食ずつ用意する予定だ。学校の調理室

R7.3.8

附属松本中学校体育館にて開催



（２）実施内容の概要

開始前 生徒と保護者で撮影



（２）実施内容の概要



準備の様子



(2) 実施内容の概要



市民タイムス 令和7年(2025年)3月9日 日曜日 (22)

こども食堂 中学生運営

松本市桐1の信州大学付属松本中学校2年A組(宮坂浩司教諭、39人)は8日、同校体育館で「Aえ!こども食堂」を開いた。訪れた地域住民たちに、豚汁と、防災食「アルファ米」を使ったおにぎりなどのセット約350食を振る舞いつつ、遊んで学べるコーナーでさらに充実した時間を提供した。(伊沢 陽)

信大付属中2年A組 住民と充実の時間

朝から生徒と、保護者が調理室で豚汁を手作りました。来場者は豚汁付きの弁当を受け取ると、食事スペースで早速、具だくさんの豚汁を味わった。藤森智恵さん(43)は「野菜の甘みが出ている。アルファ米のおにぎりも意外とおいしい」と話していた。増田さとかさん(14)は「自分たちで作ったもので笑顔にできてうれしい」と話していた。生徒たちは1年生のころから、こども食堂や商品開発などの七つのテーマに合わせ、グループごとと学んできた。こども食堂開催に伴い、学習の成果として開発したジュース、天ぷら、キーホルダー作り体験などを提供した。各グループの受け付けに列ができるほど大盛況で、楽しそうに輪投げや、ヨーヨー釣りをしていた。

（２）実施内容の概要



花のキーホルダー作り



再生栽培コーナー

(2) 実施内容の概要



ミニ縁日



動物の飼い方を学べるゲーム
コーナー

(3) 取り組みの成果

子供の笑顔が
たくさん見れ
ました！みなさん
も一生懸命な考
がスチキでいっ
ありがとうございます

お花のちいほるたん
ありがとう



夫やうとかがよかった
つかみとりもたのしがた

お兄さんの
ロゼンまねが
うめたです

「ついで」でさる
しかったです
有りか「レゾ」ゼ
いした
石けりたア

あな「か」
たのしかった
です

あな「で」
おかしかい
もらえたが
うれしかった
ありがとう

各ブースで
いろいろ工夫されて
いて楽しませて
いただきました。
ありがとうございます

たくさん
回ることが
できました！

楽しかったです!!



たのし
くた
す

たのしがた
です


さがり
い

しんじる
めためた
おいしかった
また来たいな

ごはん
うめた



優しく接して
くれて ありがとうございます
普段、中学生と交流
出来ないのと、貴重な
経験とありかとう
ございます。

つかみとり
でいいはおい
しなうれし
かった。

天ぷらや、ジュース
がものすごく大
いしかった!

楽しかったです。

犬がとってもかわ
いかったし天ぷら
などもおいしく
たです!!

輪投げが
楽しかったです

とても、楽し
かったです!
ふとく小3年

小さな子をつれて
きたのですが
子どもたちはとても
たのしんでいました!

やさしいこと
とても べんきょう
になりました

かちかちの
キーホルダー かわ
いかった。

おにーさんたち
おねーさんたち
がめっちゃ楽しか
た!! 大好き♡
ありがとう!!

ジュース
おいしかった

（３）取り組みの成果

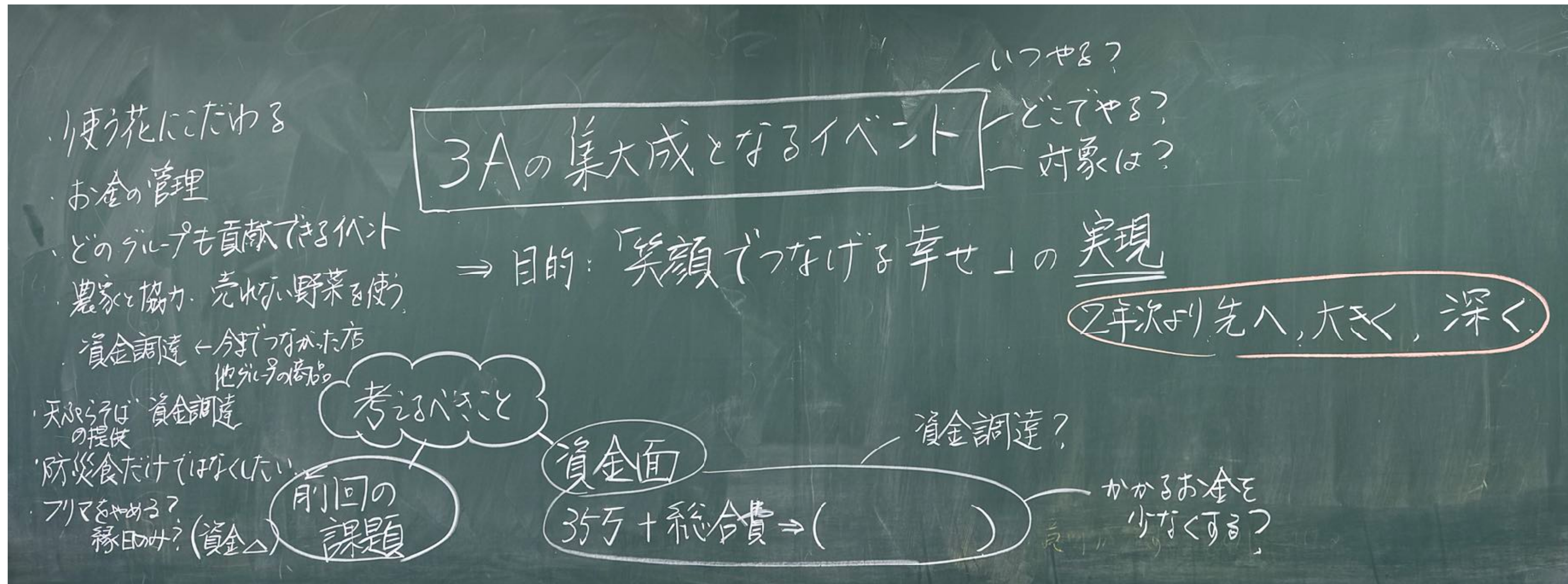
保護者の方より

お手伝いで参加した保護者です。朝、野菜を切る際に、切り方や数量など分かりやすくプリントされていたので、迷わずに作業することができました。生徒さんの工夫が感じられました。今回、調理作業を手伝いましたが、子ども達や保護者のみなさんと一緒に作業することで、話をしたり、協力したり、知恵を出し合ったりする中で、新しい繋がりができたと思います。初めて話した生徒さんや保護者も大勢いて、知り合いになれたこと自体が貴重な機会でした。１日仕事で大変ではありましたが、来てくれた方にも喜んで食べていただき、笑顔でつながる幸せを感じた１日でした。

（３）取り組みの成果

Aさんの振り返り 「笑顔でつなげる幸せ」を実現する「ひと」とはどのような存在だろうか。それは、相手のことを考え思いやりの気持ちを持ち、行動できる人だと思う。相手を笑顔にするためには、まず相手の立場を理解し、何が必要かを考えて、それを実行する力が求められるのではないか。これは、私たちの学校の目標である「たくましく心豊かな地球市民」にもつながる部分があると思った。「たくましさ」は、自ら考え行動する力であり、「心の豊かさ」は、他者への思いやりや共感の気持ちだ。そして、「地球市民」としての視点を持つことで、より広い社会に目を向け、地域や世界の人々とも「笑顔でつなげる幸せ」を共有できるのではないだろうか。私たちは2年間の総合学習を通して、その力を少しずつ積み上げてきた。そして、それを支える「社会」とは、一人ひとりの思いやりや行動が循環し、笑顔がつながる環境がある社会なのではないか。

(4) 今後の期待や展望



2度目の子ども食堂開催→「笑顔でつなげる幸せ」の実現へ
子ども食堂を通じて「生き方」「社会のあり方」を見つめていく生徒